

平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北国街道沿い地域資源の保全と活用による地域内・地域間の交流・観光拠点づくり
事業主体 (連絡先)	NPO 法人 信州上田文化デザイン研究会 (理事長 田中 明)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード事業
総事業費	6, 116, 283円 (うち支援金: 3, 797, 000円)

事業内容

- 丸山邸木倉を木屋平きずな工房として改築
- 地元歴史文化に関する研究と啓発事業として、会員や専門家6名によって丸山家の資料がひもとかれる
- 各種展示会の開催
- 木屋平いきざま講座として、7回の講座を開催
- シンポジウムの開催



【木屋平いきざま講座】

事業効果

- 丸山邸木倉を木屋平きずな工房として改築し、工房を使用して「世代間交流を通じた歴史・文化の継承」としての展示会等の活動を行い、今後地元の方々に工房を幅広く使用して頂き、世代間の交流や文化の継承に努める。
- 地元歴史文化に関する研究と啓発事業として、会員や専門家6名によって丸山家の古文書や資料がひもとかれ蚕都上田としての新しい資料が発表され認識される。
- 年間3回の展示会を開催し、真田氏に關した「柳沢京子の真田十勇士切り絵展」、地元文化の「塩尻と相撲展」で地元にもつわる文化や現存する相撲まわしを地元の協力を得て展示、丸山家の調査した。資料を整理し展示した「丸山家資料展示展」などを開催し、今ではなかなか目にすることのできない地元文化の発掘に貢献した。尚、季節に合わせ「昔雛人形の展示」や「丸山当主の五月人形」など、数多くの展示を行い地元文化の発掘に貢献した。
- 木屋平いきざま講座として、7回の講座を開催。丸山家で発見された資料等をもとにした講演で、現代の人々の予想を超える蚕都があったり、上田という地元が栄えた事実や当時の文化を知ることができた。また、地元の偉人「赤松湖三郎」や「山極勝三郎」をとりあつかった講演や、地元の文化であった「塩尻と相撲」などが開催され、小学生や地元の方々に幅広く啓蒙することができた。
- シンポジウムの開催を通じて、地元の人々は身近すぎて気がつかない良さとして、上田が持っている城下町としての情景や自然の財産に気づき資源として生かせるように啓蒙できた。

※1 自己評価 (事業実施率) 【 A 】

【目標・ねらい】

- 「世代間交流を通じた歴史・文化の継承」として地元の方々に工房を幅広く使用して頂く
- 地域の歴史・文化に関する研究と啓発を行い、地元文化愛を育む
- 地元の方々との協働、観光啓発

※2 自己評価 (事業効果) 【 A 】

今後の取り組み

- 会として4年を経過し平八郎茶屋と工房を有する状況の中で、北国街道の活性化やグランドデザインを実現できるよう様々な活動に挑戦する。他者との協働に働きかけ、活性化を促進する。
資源として持っている城下町としての情景や、自然の財産に気づき生かせるように啓蒙する。